

医学研究実施のお知らせ

腎・透析科では、以下の研究を実施しております。

研究の対象となる方（または代理人の方）で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合、この研究に情報を利用することをご了解できない場合は、【問い合わせ先】へご照会ください。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究の成果は、患者さんの氏名等の個人情報明らかにしないようしうえで、学会発表や学術雑誌等で公表します。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問合せがあれば開示いたしますので、【問い合わせ先】までご連絡ください。

【研究課題名】

「下肢切断患者における血清可溶性（プロ）レニン受容体濃度の特性についての検討」

【研究責任者】

甘利佳史

【研究の概要】

（１）研究の背景

プロレニン[®]はレニンの非活性型前駆体であるが（プロ）レニン受容体[(P)RR]と結合することにより活性化し、レニンと同様にアンジオテンシノーゲンをアンジオテンシン I に変換することが可能となります。(P)RR は脳・心臓・腎臓など、種々の臓器における細胞レベルで発現するため、組織レニン・アンジオテンシン系(RAS)において、レニン活性の供給源として重要な役割を担っていると考えられます。次に(P)RR は furin 等の酵素による切断を受け、可溶性(プロ)レニン受容体 [s(P)RR]として、細胞外へ分泌されることが報告され、血中 s(P)RR 濃度の測定が可能となりました。血清 s(P)RR 濃度は組織 RAS を反映するマーカーとして有用である可能性が示唆されています。一方、血液透析（HD）患者さんは心血管合併症の発症率が高く、高度下肢閉塞性動脈硬化症からの下肢虚血に対して切断手術を受けられている方も多くおられます。その原因の一つとして、組織 RAS の変化が関与している可能性が考えられるのですが、下肢切断 HD 患者さんにおける、血中 s(P)RR 濃度の特徴については、明らかではありません。

（２）研究の目的

切断手術前の HD 時における血清 s(P)RR 濃度を測定し、各種患者背景因子との関連を調べるとともに、その値が切断手術後にどのように変化するか比較検討することを目的とし

ます。また、切断部位の組織に s(P)RR の発現がないかを免疫組織化学的に検討します。

(3) 研究期間

研究許可日～2025 年 12 月 31 日

この研究は、守口敬仁会病院倫理審査委員会の承認を受け、守口敬仁会病院病院長の許可を受けて実施するものです（承認番号：0107）。

(4) 研究の対象

当院で下肢切断術を受けられた HD 患者さんを対象とします。

(5) 研究の内容と方法

各患者さんの術前の HD 時の採血で s(P)RR 濃度を測定し、同時期の各種患者背景因子との関連を調べます。術後も、HD 時の採血で s(P)RR 濃度を測定し、どのように変化するか比較検討します。また、切断部位の組織に s(P)RR の発現がないかを免疫組織化学的に検討します。

(6) 研究に用いる試料・情報の種類

- ・試料：切断病変の組織（筋肉、動静脈）
- ・情報：①患者基本情報として、年齢、性別、身長、体重、血圧、脈拍、喫煙歴、心血管イベントの既往歴など（この際、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人を特定するような情報は研究に用いません）、②疾患情報として、透析に至った原疾患、病歴、使用薬剤など、③検査情報として血液データや X 線検査（心胸比）、CT 検査（内臓脂肪量）、超音波検査（心臓、頸動脈）などの結果・所見など

収集した情報は、解析する前に氏名・患者 ID などの個人情報を削り、新たな符号（番号）をつけ、どなたのものかわからないようにします（このことを匿名化といいます）。研究成果を学会や論文で発表する際も、個人が特定できる情報は利用いたしません。

【問い合わせ先（対応時間：平日 09：00 ～ 17：00）】

社会医療法人 彩樹 守口敬仁会病院

06-6906-9000

研究責任者 腎・透析科 部長 甘利佳史